

# 令和7年度自己評価シート

認定こども園新郷南幼稚園

## 1、園の教育目標

本園は、子ども一人ひとりを大切にし、保護者から信頼され、地域に愛されるこども園を目指しています。

- ・ 心身共に健康で元気に遊ぶ子ども
- ・ 心豊かで思いやりのある子ども
- ・ 自分で考え行動する子ども

## 2、具体的な目標や計画

評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施することによって、教師自らが客観的に自園を見る目を養い、施設の改善、教育内容の改善に主体的に取り組んでいくことを重点項目とする。

## 3、評価項目の取組及び達成状況

評価項目	結果(※)	結果の理由
園の教育理念・教育目標・方針に沿って教育課程が編成され、それを基に年間指導計画を作成し、月週案を随時評価し見直している。	A	・日々の振り返りを行い、月案を見直して子どもの姿に沿った保育・教育を行った。0, 1歳は、毎月個別に目標を立案し、きめ細やかな保育を行った。
認定こども園教育・保育要領の内容を理解し、0歳児から就学前までの子どもの発達状況に即した指導が行われている。	A	・子どもの実態を踏まえ、発達に即した内容の保育を実践し、行事の取り組みも改善している。年度替りには担任の引継ぎ会を行い、発達の連続性を大切にしている。
職員間の共通理解のもと教育・保育にふさわしい生活環境の工・見直しを行っている。	A	・子どもの体調変化に気を配った。職員間の細やかな連携を大切にし、感染防止策や環境の見直しや工夫を行った。
子どもへの援助主体的な遊びができる環境設定がされているか。	B	遊びのコーナーを複数設置し、子どもが自ら遊びを選択し集中できる環境を整えた。特に、廃材コーナーの充実により、創造性や表現意欲が高まり、遊びの展開に広がりが見られた。
教育の質の向上のために、園内外研修を充実させる	B	幼児の発達の姿を捉えるための研修を定期的実施する。自由闊達に意見が開示できる環境をつくっている。キャリアアップ研修に積極的に参加し保育の質の向上することが出来た。

評価項目	結果(※)	結果の理由
あそびを通して工夫したり、協力したりする姿が見られる。	A	自分で工夫して遊び、それが発展して友だちと協力して遊べる環境を準備するようにしている。
規則正しい生活習慣の定着に向けての指導を行なう。	B	登園から降園までの一日の流れの中で、身に付けてほしい生活習慣の獲得を促している。
園生活をより良くするための環境について 職務分担の中で計画立案の体制を整えていく。	B	健康・安全・造形の分野ではリーダーが中心になってカリキュラムを もとに取り組んでいるが、記録中心に終わっている現状である。今後は特に計画立案に力をいれていきたい。
危機管理マニュアルを基に防災計画を作成し適切に実施している。	B	・危機管理の研修にも参加して職員の意識を高めている。 毎月訓練を実施して改善点を話し合い次の訓練に活かしている。安心安全な園生活に向けて今後も努めていきたい。
保育参観・家庭訪問・個人懇談・HP 等を通し、保育の内容や情報を提供し、保護者の意見や要望等も受けやすくしている。	A	・ホームページへのアップを心がけ保護者に園の様子を見てもらう機会が増え、園の情報をより発信できた。 ・コロナ感染対策を講じた上で、参観日も学年ごとに実施できた。

#### 4、具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師一人一人が学校評価の主旨を理解し、各自適切に自己点検、自己評価に取り組んでいる様子が見られた。今後も客観的な目で自らの教育、保育を振り返り、さらに充実した実践ができるように努力を積み重ねてほしい。</li> <li>・施設面では、新園舎での生活が始まり環境整備に力を入れており、子ども達が安心、安全に遊べる環境になるように努力しており、概ね目標を達成できた。</li> <li>・年齢が低い0，1歳児は、保護者との連絡を密に、様子を伝え合うことができる。職員間も連携を図り保育を行うことができた。</li> <li>・日々の保育で子どもの遊びの様子を見取り、育ちつつある姿を捉え、保育に反映することができた。今後も本園の特色を 活かし、良質な遊びの環境を検討、実践し、子どもの豊かな学びにつなげていきたい。</li> </ul>

#### ○結果(※)について

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

## 5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
情報公開の方法	現在園たよりや参観日などを通して保護者への周知徹底には取り組んでいるが、さらに進んだ情報公開として一般の方が利用しやすいホームページ等の活用も検討していく。
スキンシップや遊びを通して、子どもとの関係を深める	生活や遊びを通して子どもとふれあい、子どもの好きな遊びや楽しい経験を共有する。共感できる理解者を心掛ける。子どもひとりひとりの気持ちをきちんと把握しているかを日々問い直す。
個別の課題や目標に応じ、保護者と連携して達成に努めている	子どもの性格・発達・成長を理解し適切な関わり方など、研修に努める。日頃から受け入れの体制を整えることが大切である。保護者間にも理解を深めるために園の様子を伝えるだけではなく、保護者の思いを受け入れたり、子どもにとってよりよく過ごせるようにする。
保育の計画性	園の教育理念・教育方針の認識を徹底し、職員間で具体的に確認をし、共通理解を持って園児ひとりひとりに寄り添い、コロナ禍での制限がありながらも、その中でできるだけさまざまな体験ができるように計画を立てていく。
保育者としての資質や能力・良識・適正	<p>今後もコロナ禍での保育が想定されるので、園児の健康・安全をしっかりと守りながら、保育していく。</p> <p>園内外の清掃や整理整頓を心がけ、園児や教育に関する情報をたえずとらえ、保育に生かしていく。</p>
地域の自然や社会とのかかわり	<p>地域の主な行事等を理解し、地域とのかかわりを積極的に持つようにする。</p> <p>市の機関との連携を図る。</p>
保護者への対応	預かり保育担当者とも連携して、園児の園での様子を積極的に保護者に伝え、成長につながる関わりを、園と家庭とで協力して行えるようにしていく。
行事を運営するにあたって、前年度の反省や改善点をどの様に活かしていくか	行事の在り方を教職員で話し合い具体的な取り組みを考えていく。行事毎に反省会を行っているが、各クラスの感想になってしまいがちなので、来年に繋げる会議を行っていく。職員会議、主任会議、反省会などは記録係を作り議事録に残し、引継ぎがきちんとできるようにする。

## 第三者評価シート（学校関係者評価）

新郷南幼稚園 学校関係者評価委員会

日時 令和7年11月21日（金）

19:30 ～ 20:30（時間）

出席者 評価委員（職員、学識経験者）6人

評価委員（保護者）5人

### 1. 自己評価で設定した目標・計画、評価項目の設定は適切であったか

概ね適切である。新しい園生活、先生方が打開策を必死に暗中模索されたのがよく伝わった。課題など、子どもや保護者に寄り添った保育指導をいただき感謝している。

### 2. 評価結果の内容は適切であったか

概ね適切であると思われる。

1人ひとりが学校評価の主旨を理解し、各自適切に自己点検、自己評価に取り組んでいる様子が見られた。特に、教育内容の取り組みには、力を入れており、充実していると感じられる。

### 3. 今後取り組むべき課題は適切に設定されているか

概ね適切に設定されている。感染対策をふまえ、さらに工夫を行いながら行事ができる課題になっている。子ども一人ひとりの個性に合わせた指導、成長できる課題となっている。

### 4. 今後取り組むべき課題は適切に行われているか

取り組みのほとんどが適切に行われている。特に大きな行事については、事前に準備や計画が十分できている。

### 5. 学校関係者評価委員による自己評価の検証

特に良いと思われる点

送迎時のコミュニケーションに加え、連絡帳や個別の面談を通じて保護者の願いを丁寧に聞き取ることができた。育児相談についても、具体的な事例を共有しながら親身な対応を心がけ、信頼関係を深められた。（85%達成）

保護者向けの研修や情報提供（子育て講座など）の機会が少なかった。次年度は、専門的な視点を取り入れた情報発信を年2回以上実施し、家庭での育児力の向上をサポートする。子どもの持っている能力を最大限生かすように環境の整備に努め、安全な職員配置をして体幹を鍛える身体づくりを援助しています

保護者と職員の意見から園の雰囲気が良いことが伝わり、経営層が組織づくりに努めてきた成果がみられました。

人と人、歴史と未来に「つながる」ことを意識して、「生きる力・思いやり・夢・学びに向かう力」を育むことを保育方針としている。

こども園が育みたい子どもの姿を明文化し、子どもへの想いを保育者・保護者で共有し、子どもの成長を見守っている。

地域とのつながりから様々な活動を行い、地域の一員として歩き始めている。

#### 更なる改善望まれる点

職員個々のスキルアップのため、目標設定と連動した研修計画を立てる。特に、障がい児保育や特別な配慮を必要とする子どもへの対応に関する専門性を高める研修を必須とする。職員一人ひとりが役割を全うするだけでなく、必要な情報を整理し、活用できるようになっていくことを期待します

マニュアルに加えて独自の業務手順書を作成していますが、職員同士の伝達により齟齬が生じており更なる業務の標準化の取組が期待されます